

◎ 美術館情報

最新の情報は、各施設の公式ホームページなどでご確認ください。

1. 福井県陶芸館【福井・丹生郡】(https://www.tougeikan.jp/event/detail_0260_20240709R6Kanzouhinten.html)

7月9日(火)～10月14日(月・祝)

令和6年度館蔵品展

「新古到来！楽しきやきものー古越前・楽茶碗・芥山・クレイワーク」

古いものから新しいものまで、やきものを楽しく知ってほしい！今回の館蔵品展では、各時代の個性豊かな面々を紹介しします。また昨年度、新たに収蔵した「古越前の壺」、「大樋焼の赤楽茶碗」、「塚原芥山の作品」をお披露目いたします。



2. 京都工芸繊維大学 美術工芸資料館【京都・左京区】(<https://www.museum.kit.ac.jp/20240902.html>)

9月2日(月)～10月26日(土)

企画展：「京都高等工芸学校シリーズ2

東洋へのまなざしー京都高等工芸学校初期収集の陶磁器を中心に」
京都工芸繊維大学の前身校のひとつである京都高等工芸学校(明治35年開校)では、教材として多くの「参考品」を購入していました。それらは、講義や実習で生徒に示されただけでなく、地元京都で伝統産業に携わる人びとにもひろく公開されていたことがわかっています。京都高等工芸学校時代に購入された参考品としては、ロートレックやクリムトなどによるポスター類やアール・ヌーヴォーの陶磁器、ティファニーのガラス器類などがよく知られています。京都高等工芸学校の図案指導が欧米の最先端のデザイン状況を伝えることを中心としていたため、わたしたちもそのような欧米の美術工芸品をみていただく展覧会を多く企画してきました。しかし、京都高等工芸学校では、そのような欧米の美術工芸品だけではなく、日本の古美術やさらにアジアの工芸品や民族衣装なども購入し、収蔵していました。今回の展覧会では、京都高等工芸学校初期の収集品のなかから、これまであまり注目してこなかった中国大陸や朝鮮半島で製作された陶磁器を展示します。そこには後漢時代の出土品や三国時代の新羅でつくられた土器なども含まれています。京都高等工芸学校の図案教育の、これまで知られていなかった側面をご覧に入れることができると思います。明治時代後期から大正時代にかけての「ものづくり教育」のなかで収集された、ちょっと意外な東アジア陶磁器の数々から、当時の東洋へのまなざしをお楽しみください。



3. 滋賀県立陶芸の森 陶芸館【滋賀・甲賀】(<https://www.sccp.jp/exhibitions/18895/>)

9月14日(土)～12月8日(日)

特別展「躍動するアジア陶磁ー町田市立博物館所蔵の名品からー」

日本屈指の東南アジア陶磁コレクションで知られる、町田市立博物館(現在休館中)の陶磁器やガラス工芸の優品約150点を厳選して展示します。多彩な作品を通じて、魅力に溢れたアジア工芸の世界をお楽しみいただけます。



4. 多治見市美濃焼ミュージアム【岐阜・多治見】

① 令和6年度 多治見市美濃焼ミュージアム企画展

「没後40年 陶磁器デザイナー日根野作三 一人をつなぐデザイン 美濃の足跡」

9月7日(土)～令和7年1月26日(日)

日根野作三(ひねのさくぞう)は、戦後日本を代表する陶磁器デザイナーです。明治40(1907)年、現在の三重県伊賀市に生まれ東京高等工芸学校(現 千葉大学工学部)で学んだ後、京都の国立陶磁器試験所などを経てデザイナーとしての才能を開花させます。戦後はフリーのデザイナーとして独立すると、三重県を拠点に愛知、岐阜、滋賀など多くの陶磁器産地でデザインの指導と普及に努めます。昭和59(1984)年に亡くなるまで、陶磁器デザインの先駆者として大きな足跡を残しました。美濃の窯業界に多大な影響を与えた日根野の貴重な資料を、平成18(2006)年にご遺族から当館にご寄贈いただきました。そのなかには日根野と深い交流のあった知友や子弟の作品をはじめ、自身で制作した楽焼の茶碗、デザイン帳などがあります。特に食器、図案集など52冊に及ぶデザイン帳は各研究機関や組合、製陶所、個人などを指導するために制作されました。こうした膨大な資料から、日根野の目指した「多くの人に美しいものを届ける」デザインとは何かを改めて検証し、その教えを次世代につなぐ機会となれば幸いです。没後から40年経て、今なお輝きを失わない日根野のデザインの魅力をご覧ください。



② 令和6年度 多治見市美濃焼ミュージアムイベント企画「特別展示 現代陶×茶室」

多治見市美濃焼ミュージアムイベント企画
特別展示 現代陶×茶室

令和6年度より、茶室を使った特別展示を開催いたします。
当館には、たくさんの作品が収蔵されており、中でも重量感のある大きな現代陶はガラスケースに収まらないスケール感があり、露出展示することでより一層作品の良さをご覧いただけます。そこで今年度は、茶室一つの展示室と見立て、当館収蔵品の現代陶を展示します。また、美濃を中心に活躍する現代の作家を広く紹介する場とします。
伝統的な和の中に存在する現代陶というこれまでにない空間の中で、フレッシュさとインパクトのある茶室展示をぜひご覧ください。

(作品例)

ホワイト・コンヤブレン 三方製行 美濃焼ミュージアム蔵	黒 22-1 伊賀製業 個人蔵	藍之屋 大橋製之屋 美濃焼ミュージアム蔵

(展示例)

美濃で活躍する現代作家と伝統作品の組み合わせ - 多治見市陶磁器意匠研究所のラボが誇る美濃の器

●期間：令和6年6月より展示中(随時展示替え)
●時間：9:00～17:00(入館は16:30まで)
●場所：多治見市美濃焼ミュージアム 立丸茶室
岐阜県多治見市美濃 1-9-27 TEL: 0572-23-1181

令和6年 6月より展示(随時展示替え)

令和6年度より、茶室を使った特別展示を開催いたします。

当館には、たくさんの作品が収蔵されており、中でも重量感のある大きな現代陶はガラスケースに収まらないスケール感があり、露出展示することでより一層作品の良さをご覧いただけます。そこで今年度は、茶室を一つの展示室と見立て、当館収蔵品の現代陶を展示します。また、美濃を中心に活躍する現代の作家を広く紹介する場とします。伝統的な和の中に存在する現代陶というこれまでにない空間の中で、フレッシュさとインパクトのある茶室展示をぜひご覧ください。

- ・9月中～11月末(日時未定) 美濃で活躍する現代の志野の作家の展示 後藤秀樹
- ・12月 多治見市陶磁器意匠研究所研究生による穴窯作品展示
- ・1～3月 収蔵作品展示

*日時、内容はすべて予定。

詳細は美濃焼ミュージアム担当山浦までお問い合わせください。